

美瑛中心市街地区

(北海道美瑛町)

- 計 画 期 間 平成 26 年度～30 年度
- 面 積 190.4ha
- 交付対象事業費 2,055 百万円
- 町人口 10,523 人 (地区内人口 4,938 人)

ポイント 北海道大学との連携研究により中心市街地の課題を検討し、郊外を周遊する観光客を効果的に中心市街地へ誘客するための動線と拠点施設の整備等により、次代においても安心した暮らしができる活気のある中心市街地の再生を目指すまちづくり。

地区概要 新たなスタイルの交流拠点施設と丸山通りの良質な街並み空間の整備により、本通り地区周辺に滞留する観光客の周遊を促進し、交流人口と滞在時間の増加による中心市街地全体の活性化を目標としています。

目 標 大目標：美しい丘のまちで次代においても安心した暮らしができる活気のある市街地の再生を目指す。

- 目標 1－丸山通り地区への誘客を促進する良質な空間を整備します。
- 目標 2－誘客を可能とする施設整備を推進し、地域コミュニティに負荷の少ない環境を整備します。
- 目標 3－新たなスタイルの拠点施設を整備し、本町の真の魅力の発信と地域交流の推進を図ります。

指 標

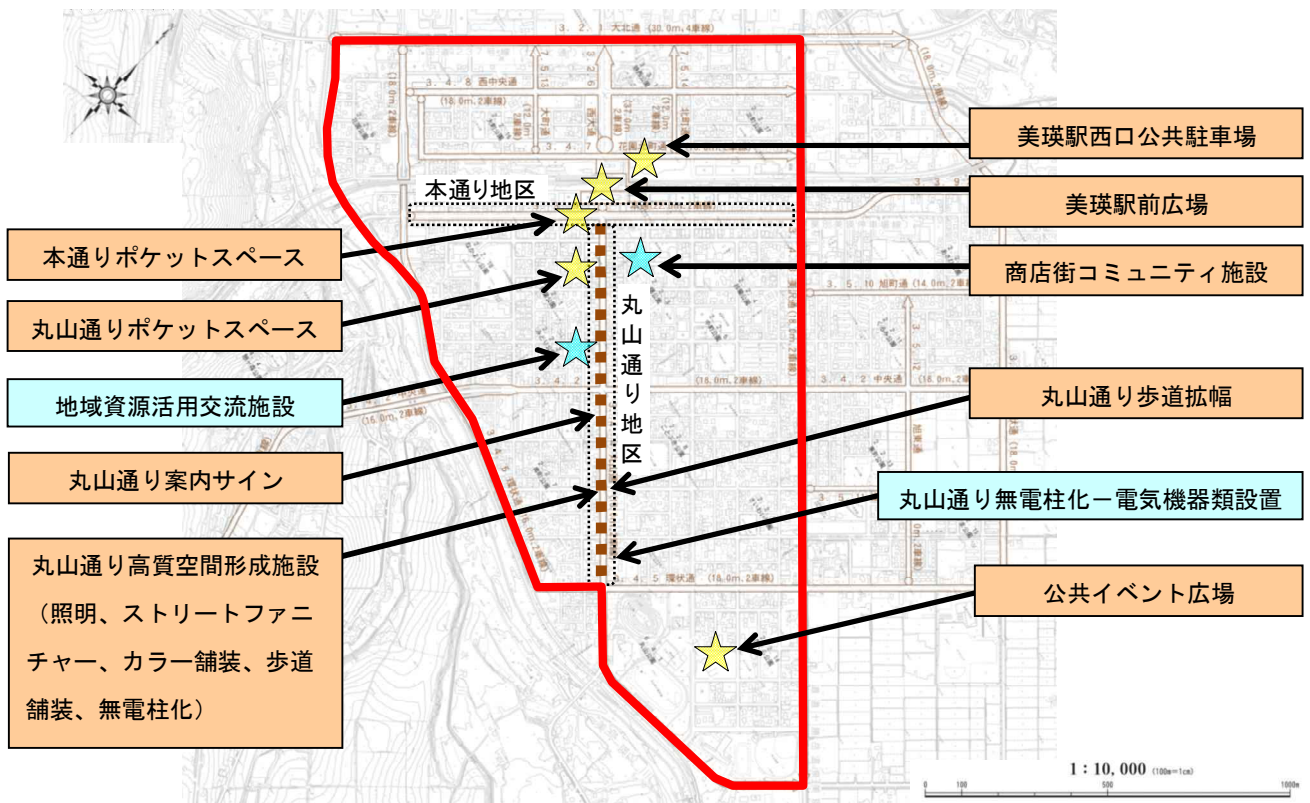
街並み空間や交流施設の整備によって創出される中心市街地の交流人口の増加がもたらす相乗効果を目指としています。

丸山通りの歩行者数	524 人/日 (H24)	→	580 人/日 (H30)
中心市街地への入込者数	387,294 人/年 (H24)	→	426,000 人/年 (H30)
地域交流センターの利用者数	12,761 人/年 (H24)	→	16,500 人/年 (H30)

事業内容

基幹事業 (1,533 百万円) → 道路 (1 路線・L=550m・W=18m)、地域生活基盤施設 (広場 N=4 箇所、駐車場 N=1 箇所、情報版等)、高質空間形成施設 (照明、ストリートファニチャー、カラー舗装、歩道舗装、無電柱化)、既存建造物活用事業 (地域交流センター)

提案事業 (522 百万円) → 地域創造支援事業 (地域資源活用交流施設、無電柱化-電気機器類設置)



地区の現況と課題

本計画区域は、本町市街地の骨格を成す「本通り地区」及び「丸山通り地区」を中心としたエリアであり、購買力の低下等の厳しい情勢の中、農・商・工・観などの各産業が連携し、地域の自立的発展に向けた取り組みを進めています。しかし、良質な街並みが整備された本通り地区への誘客は進んでいますが、都市機能が不十分な丸山通り地区への周遊が進まず、観光客の滞在時間も伸びないことで効果的な活性化が図られていない現状にあります。

提案事業の特徴

▽地域資源活用交流施設（郷土資料館活用）

美瑛町民はもとより町外からの来訪者へ美瑛町の風土・文化・歴史を再発見できる「学びの場」「楽しみの場」「発信の場」の中核となる新たな施設を整備します。

▽丸山通無電柱化—電気機器類設置

周辺景観を阻害している電線類の地中化に必要な電気機器類を設置することにより、丸山通り地区の良好な街並み空間を創出します。

計画策定プロセス

計画策定に先立ち、H24年度に北海道大学観光学高等研究センターと連携して美瑛町役場庁舎内に「北大・美瑛町まちづくり創造研究所」を設置し、学生による町民や観光客へのアンケート調査、丸山通りの新しいデザインを検討するための町民ワークショップ等を開催しました。多様な意見や成果を丸山通りの高質空間形成や地域交流センターのコンセプトづくりに取り入れるなど、「官・民・学」が連携した取り組みによる計画策定を進めています。

美瑛町 浜田 哲町長のコメント

美瑛町は、フランスやイタリアと連携する「日本で最も美しい村」連合のメンバーとしてまちづくりを進めています。丸山通りは、そのシンボルとして人々の行き交う美しい街路づくりを目指し、電線類の地中化、景観づくり等を住民との協議のもとに事業担当者が精力的に取り組んで来ました。

丸山通り地区連絡協議会

三野 雅司会長のコメント

中心市街地の再整備によって多くの観光客が訪れ、商店街にかつての賑わいを取り戻せることを期待しています。今回の事業をきっかけとして地域の連携をさらに深め、活気あるより良いまちづくりに取り組んでいきたいと思えます。

北海道大学観光学高等研究センター 西山徳明センター長・宮城島崇人学術研究員のコメント

町民をはじめ美瑛町を訪れる人たちの生の声を聞くことが、美瑛町のこれからのビジョンを考えていくうえで重要なきっかけとなりました。美瑛町の市街地がどのような場所になって欲しいかという問いかけに対しては、それぞれの立場によって実に多様な、そして時には相反する意見が聞かれました。それらを大局的に見た今後の市街地形成の方向性に照らしつつ、事業自体の長所を伸ばすかたちで統合していくことを通して、新たなビジョンを模索しました。



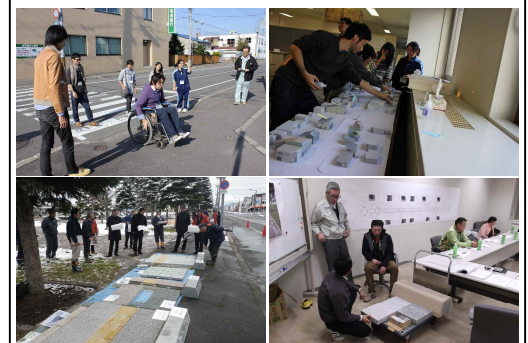
【現在の丸山通り地区の様子】



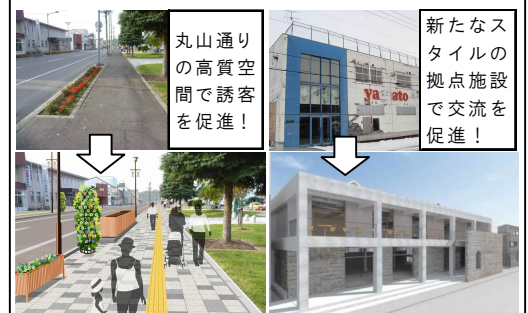
【美瑛町の美しい景観と整備済みの本通り地区】



【北海道新聞：H24.4.13】



【中心市街地再整備ワークショップの様子】



【丸山通りと地域交流センターの整備イメージ】